

出会い、出どころ、ディレクション。モノゴトづくりを趣味にする僕のこれまでとこれから。

ピーコック

Magazine for HATTORI City Boys & Girls
2021 NOVEMBER Issue.08



茶論



デザインの「デ」



ピーコックマガジン 2021年11月号

発行：喫茶ピーコック 大阪府豊中市服部元町1-1-6 TEL:06-6864-0317



店主が綴る、エッセイのようなもの
くちびるに珈琲を。
the sun in mind, the coffee to lips.

人生に、オリジナルなひと皿を

今回のコラムにも書いた「Connecting the Dots.

アップルのスティーブ・ジョブズの有名な言葉なんだけど
人生を半分くらい生きてると本当にそう思う

あの時の経験は今日のために仕込んでおいたわけじゃないし
あの日の失敗が役に立つなんて思ってもみなかった
そんなことってありませんか？

若い頃はよく「こんな意味あるん？」とか

「あー、ほんま無意味やったわ！」みたいなグチを言ってたけど
むしろ後から効いてくるというか即効性のあるものほど廃れていって
必死に夢中で意味わからないくらい一生懸命やっていたことほど
自分に備わっている気がする

キャリアデザインなんていう言葉はあるけど

点を先に打ってガリガリと繋げていく人生は味気ない
むしろ、寄り道して・道草食って・油を売る毎日が
僕らの暮らしを豊かにしていくんじゃないかとも思うわけです

「若い頃の失敗を寄り道で拾った道草と一緒にソテーする」

そんなオリジナルなひと皿を味わうために
毎日はあるんじゃないでしょうか

僕の好きな

言葉

ブランドとは、見え方のコントロールである。

グッドデザインカンパニー 水野 学

📖 今月の一冊

ウラからのぞけば
オモテが見える

佐藤オオキ (nendo)



東京オリンピックの聖火台やローソンPBのデザインを手がける、nendo代表・佐藤オオキさんの著書。デザインに至る思考や発想・日々の視点や考え方をゆるいイラストとともにわかりやすく解説してくれる1冊です。僕が毎日同じ服なのも仕事を多面的に見る癖も、間違いなく影響を受けていると思う。

🏠 僕らの町のお店

sentoholic セントウホリック

📧 sentoholicworks@gmail.com

キキステナラズ、サルビア、ブランドセントラルなど僕ら界隈のロゴやデザインを繰り出している銭湯大好き太田さんのワーク。まちイベントのチラシ制作やお店のロゴはもちろん、好きが高じて「銭湯マップ」なども手がける仕事ぶり。パッと目を引くかわいさと細かい遊びに太田さんの人

柄がすごく出ていて、つついお願いたくなるデザイナーさんです。お仕事の依頼や相談はメールからどうぞ。



本と音とお店のはなし。

🎧 今月の一曲

Sunday People

スーパーカー



若い頃はパンクばかり聴いてた僕が当時のバンドメンバーからオススメされたのがスーパーカー。アートワークというか、CDのジャケットや写真の雰囲気「いちいちオシャレやな〜」と思ったのを覚えています。熱すぎない気だるさと心地よいリズムが休日の午後に漂う懐かしの1曲。



for HATTORI City Boys & Girls

デザインの「デ」



小さい頃から「人と同じじゃイヤ」だったり「自分ならこうする」っていうこだわりが強かった僕は、小学校の工作や高校の制服も「自分なりの工夫」を凝らしていたように思う。ギターにステッカーを貼ったりバイクをカスタムしたりとそれは成人を迎えてもまだ健在で。そんな僕に「デザイン」という言葉がやってきたのはおそらく23歳あたり。当時ライブハウスで働いていた僕は同僚や先輩が「Book G4+イラストレーター」でイベントフライヤーやバンドロゴのデザインをしているのを

見て「かっこええなー!」と思ったわけ。そこですぐさま同じものを買い込み、色々と教えてもらいながら自分のイベントやバンドのあれこれを作るようになっていきました。

自分で作れるようになるのと人のものも気になって、町で見かける広告や雑誌の紙面、当時のウイレッジヴァンガードにおいてあったようなクリエイティブなフリーペーパーなどを参考に「自分の手がけるものは自分で作る」っていうスタンスでやってきました。当然、写真もそれなりに使えるものが必要だし、コピーやテキストなど基本的な素材は自分で揃える「自給自足」だったんですね。バンドをするにしても、バンド名・ロゴ・キャッチコピー・説明文・グッズデザインばかり気になって、むしろそっちのほうが楽しいっていう「EPM形から入る人」に成りあがり。そんなわけなんで、細やかな制作物ももちろん大事なんだけど、それを組み合わせた全体像「企画そのもの」を眺める癖のようなものが備わっていったんです。

24歳の時に家業を継ぎ店に入ってもその感覚は健在で、「昭和の古い

喫茶店」っていう世界観を大事にしながらも、時代との折り合いや僕個人の好みも仕込みながら「喫茶ピーコック」を作り上げてきました。最近では僕個人の趣味が前面に出てきてはいるけど、ベースになっているのは洗練されすぎていない当時の野暮ったいミッドセンチュリーです。全体の世界観やアウトラインをきちんと取ってからは必要なデザインを足していくっていうのはお店でもバンドでも変わらない気がする。

店以外の活動や企画に関してはデザイナーやカメラマンが別にいることもあるのでディレクション的な立場にいることも多いんだけど、それでもこれまでの糧というか自給自足時代が活きているなあとと思う。この「ピーコックマジジン」にしても、企画とライティングは僕が担当していて、紙面制作はデザイナーさんに依頼してるんですね。なので手を動かすというよりは、店の洗い物しながら企画を練って文章を考えるみたいなことをしています。当時は店を継ぐなんて思ってもいなかったのにね、Connecting the Dots. です、ほんと。



sentoholic

上芝英司 | 1979年服部生まれ、喫茶ピーコック3代目店主。喫茶と文章に動しむA型乙女座ヒゲメガネ。企画や作文、図画工作が得意。

PEACOCK64



https://peacock64.com

PEACOCK64 服部